

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1172502260		
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・東所沢		
所在地	埼玉県所沢市東所沢3-36-18		
自己評価作成日	令和7年11月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.nhlw.go.jp/11/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon:true&JigyosyoCd=1172502260-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	令和7年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

移転して5年経っていないため、綺麗なホームとなっております。柔らかい床を使用しているため、骨折のリスクが少なくなっております。また、日当たりが良いため、日中は明るく暖かくなります。体操にも力を入れているため、午前と午後には体操をおこなっております。その他パズルや塗り絵、時代劇鑑賞や音楽鑑賞もおこなっております。また、毎月1回はイベントやおやつレクリエーションを開催しております。近隣住民の方を交えてオレンジカフェを年4回開催し、地域交流もおこなっております。利用者様の心の声に寄り添い、その人らしい生活の場としてのホームの在り方を職員全員で考え、どうしたら楽しんでいただけるか、喜んでいただけるか、笑顔になっていただけるかを話し合い、共有しております。職員・利用者様共に笑顔溢れるホームとなっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR武蔵野線東所沢駅から徒歩18分の場所に位置し、近くの川沿いには桜並木が広がる静かな住宅街にある、2階建て2ユニットのグループホームである。移転から5年未満であり、施設内は清潔である。床には柔らかい素材を使用しており、転倒時の骨折リスクを軽減している。日当たりが良く、日中は明るく暖かい環境である。活動としては、午前と午後には体操を実施しているほか、パズル、塗り絵、映像鑑賞、音楽鑑賞などを行っている。毎月1回、イベントやおやつレクリエーションを開催している。また、地域交流として、年4回オレンジカフェを開催している。利用者一人ひとりの思いに寄り添い、その人らしい生活の実現を目指している。職員全員で意見を共有し、利用者が安心して過ごせるホームづくりに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「寄り添う心・支え合う喜び・生命のバトンを繋ぐ責任と誇り」をホームの理念としております。理念は各階の事務所に貼っており、職員の目に留まるようになっております。	会議で理念を繰り返し伝え、職員が常に意識できるよう働きかけている。理念は各階の事務所に掲示しており、職員がいつでも目にし、心に留められるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に4回、近隣住民の方を招いてオレンジカフェを開催いたしております。近隣のボランティアの方と協力体制を築けております。	自治会に加入し、地域の情報を得ている。年4回オレンジカフェを開催し、地域住民の参加を得ている。また、近隣のボランティアとも協力体制を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェを通して利用者様とコミュニケーションを取っていただくことで、認知症とはどういう物か理解していただいております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に家族様はもちろん、地域包括の方や、市役所担当課にも参加の声かけをおこなっております。そこでホームの現状を報告し、情報共有をしております。	運営推進会議には、ご家族、地域包括支援センターや市役所の担当課に参加を呼びかけている。会議では、ホームの現状を報告し、関係者間で情報共有を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの空き状況などを毎月更新して、共有しております。また、ホームの作品展を市役所のホールに展示しております。	ホームの空き状況や必要な情報は毎月メールで共有し、必要に応じて連携を図ることで協力関係を築いている。また、ホームで制作した作品展を市役所ホールに展示し、情報発信にも積極的に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止のための指針を掲げております。年4回の身体適正化検討委員会と、年2回の研修会を実施し、ホーム全体で身体拘束のない適切なケアに取り組んでおります。	身体拘束禁止の方針を明示し、年4回の身体適正化検討委員会および年2回の研修会を実施している。ホーム全体で身体拘束のない適切なケアの推進に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のための指針を掲げております。年3回の虐待防止委員会と年2回の研修会を実施しております。事例検討会やチェックリストを活用し、情報共有と意識向上を図っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者様があり、わからない事があればお聞きして、ご指導をいただいております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は担当営業より事前に説明しております。契約時に家族様の質問にお答えし、再度説明しながら、十分理解された上で契約を締結しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様からのご意見やご要望は電話や手紙でくださる事が殆どでございます。一つ一つ真摯に受け止め、改善が必要なご意見には具体的な改善案を立てて、報告しております。	家族からの意見は面会時や電話を通じて受け取り、職員間で共有している。改善可能な点は速やかに対応し、その結果を家族へ報告している。実施後は振り返りを行い、結果を検証している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を開催し、業務改善やケア上の意見・提案を誰もができるようにしております。	毎月1回の職員会議を開催し、必要に応じてフロア会議も実施している。業務改善やケアに関する意見・提案は誰でも出せる体制を整えており、職員同士が積極的に意見交換を行っている。これにより、実際に改善が実施された事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員と個別面談を実施し、職員個々の業務への取り組みや今後への希望、悩み、不満などをヒアリングし把握しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修の参加を進めております。希望があればシフトを調整し、参加機会を確保しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在交流はできておりません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族様立ち会いのもと実態調査をおこない、現在の生活の中での困りごとや心配ごとをお聞きし、本人様のニーズを理解し、入居後の支援に取り入れております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の不安やご要望は早めにお聞きし、情報共有を図っております。また、入居後の生活の様子はこまめにお伝えしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人らしく安全で安心した生活を送っていただけるよう、利用者様に合った支援内容を提案させていただいております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自身でできる事を見つけ、職員と一緒にこなさせていただき、ご自身の役割と達成感を持っていただけるよう支援させていただいております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回ホームでの様子や医療面での相談などを通信にて報告しております。家族様に利用者様の現状をお伝えし、場合によっては電話をかけたたり、ハガキを送っていただいたりなど提案させていただいております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話をしたいと希望があれば可能な限り受け入れ、会話を楽しんでいただいております。また、家族契約の携帯電話を使用して、家族様や友人とお話していただいております。	知人の訪問や家族との墓参り、電話での会話など、馴染みの場所や人との関係を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションは誰もが参加できるような物を選んでおります。また、職員が間に入り、仲の良い利用者様同士で会話を楽しんでいただいたり、一緒に塗り絵やパズルなどをおこなっていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中に退居された利用者様の様子をお聞きしたり、希望があれば入居中の写真をアルバムにして渡しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の表情や仕草、行動を普段から観察し、利用者様の意向や希望を汲み取るよう務めております。	会話が可能な利用者が多く、日々の会話を通じて本人の意向や希望を把握している。言葉での表現が難しい利用者については、日常の表情や仕草、行動から思いを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査や、入居時に家族様や本人様から聞き取りをおこなっております。それを参考にサービスに取り入れております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族様や職員に聞き取りをおこない、それを元にアセスメントをおこない、現状の把握に努めております。またそれらをフロア会議や、申し送りなどで情報共有をおこなっております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議にてその人らしく過ごせるように課題を検討し、定期的に家族様や利用者様からモニタリングを実施し、ご意向に添った介護計画の作成に努めております。	介護計画は6か月に1回見直しを行い、3か月に1回モニタリングを実施している。家族および利用者の要望や意見を聞き、職員の意見も踏まえて、本人と家族の意向に沿った計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット端末での介護記録システムを使用し、食事や水分、服薬、排泄、口腔ケア、入浴、バイタルなど、時系列で個別記録を入力しております。その他普段と違う様子や気付きもその都度入力しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとり、利用者様に必要な支援を検討しながらサービスの提供をおこなっております。経済状況や家族様の生活圏なども考慮して対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会費は払っているが、地域活動、並びに地域イベントには参加できていないのが現状でございます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・歯科医の訪問診療や、歯科衛生士による口腔ケア、訪問看護師による医療連携にて健康管理に努めております。また、急変時には24時間いつでもクリニックに連絡し、指示を仰ぐことができるようになっております。	内科・歯科医の月2回の訪問診療に加え、週1回の歯科衛生士による口腔ケアや訪問看護師の訪問などで、健康管理に努めている。急変時には24時間対応可能な連絡体制を整備し、適切な医療を受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護記録で情報の共有を図っております。気になることや対応方法については随時相談することができ、身体状況の説明やケアの提供を受けております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病棟看護師と電話での確認をさせていただいております。医療連携室相談員と連携を密にして、早期退院に向け努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化、及び看取りについて説明させていただいております。ホームとしてできる事、できない事を明確にし、状況に合わせて主治医・家族様・ホームで相談と確認の場を設けております。	入居契約時に重度化や看取りについて説明し、ホームでの対応方針も伝えている。希望がある場合は、状況に応じて主治医・家族・ホームで相談の場を設け、確認しながら対応している。また、職員には必要に応じて研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時のフローチャートがあり、連絡体制を整備しております。救急搬送時には緊急医療パスを作成し、救急隊と情報共有を図っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練をおこなっております。消防署の方に立ち会っていただき、通報訓練、消防訓練などを実施しております。	利用者も参加して年2回の防災訓練を実施しており、消防署の立ち会いのもと通報訓練や消火訓練を行っている。備蓄品の準備や業務継続計画も整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の希望や訴えを傾聴し、否定せず、共感の声かけをするよう職員間で共有しております。身体拘束廃止委員会や虐待防止委員会の研修会で、尊厳の尊重について学んでおります。	研修を通じて尊厳の尊重について学び、声掛けや対応方法に関する意見交換を行い、日々の実践に活かしている。気になる対応があった場合には、職員同士で声を掛け合い、適切な対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様自身で自己決定できるように時間をかけて見守っております。表現が難しい利用者様へは普段の様子を把握し気持ちを汲み取ったり、閉ざされた質問をするよう務めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間は一定の時間ではなく、その時々の利用者様のペースを大切にしております。入浴やレクリエーションなども相談の上、ご希望に添った対応をしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本は利用者様自身で選んだ物を着ていただいております。衣替えをおこない、チェスト内は季節に合ったものが入っているようにしております。衣類の破損は縫ったり、家族様に連絡をして交換していただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食器拭きを職員と一緒にお手伝いしていただいております。誕生日会やおやつレクリエーションでは食材を混ぜたり、仕上げなどを一緒に楽しみながらこなっております。	利用者の状況に応じて、テーブル拭きや食器拭きなどを職員と一緒に手伝ってもらっている。誕生日会やおやつレクリエーションでは、食材を混ぜる作業や仕上げを共に行い、楽しみながら参加できるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は都度記録し、1日の摂取量の把握をしております。摂取状況に合わせて食事形態を変えたり、飲み物の種類を増やして摂取量の確保に務めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の利用者様でも磨き残しがある方には仕上げ介助をおこなっております。全介助の方にはスポンジブラシなどを使用して口腔内の清潔保持に務めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見ながらトイレの声かけをおこなっております。また、食前食後など、定時の声かけにて失禁を減らせるよう務めております。	日中は、多くの利用者が定期的な声掛けによりトイレでの排泄が可能となっている。おむつやリハビリパンツを使用している利用者についても、夜間はトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分量の確保に努めております。また、散歩や体操を積極的に取り入れ、自然な排便を心掛けております。便秘時には早めに訪問診療医や訪問看護師と連携を取っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご希望に添えるように午前・午後で入浴できるようにしております。拒否のあった方でも、時間や日にちを変え、週2回入浴できるよう務めております。	週2回、利用者の希望に合わせて午前・午後いずれの時間帯でも入浴できるようにしており、1日2～3人の利用者に対して1対1でゆっくり入浴を楽しめるよう対応している。菖蒲湯やゆず湯など、季節を感じられる工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みの寝具があれば持ち込みしていただいております。生活スタイルに添い、テレビ鑑賞や読書など余韻を楽しんでいただいております。また、空調管理、定時巡回などの安全確認をさせていただきます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は処方度に確認を徹底しております。変更時には申し送りに記録し、情報共有をおこなっております。服薬介助時にはWチェックの徹底を図り、誤薬事故防止を強化しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物畳みやテーブル拭きなど、積極的にお手伝いをしてくださる利用者様がおります。また、パズルや塗り絵時代劇のDVD鑑賞をしたり、音楽を聴いたり、気分転換をおこなっております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に添って家族様と外出や外食を楽しんでいただいております。また、近隣への散歩や、玄関先での外気浴をおこなっております。	現在、外出に制限はなく、家族との外食も行っている。施設対応での遠方への外出は難しいが、近隣の神社への初詣や桜見物などの外出は実施している。また、外に椅子を出して外気浴を行うなど、気分転換の機会も提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の持ち込みは控えていただいております。購入希望があるものは職員が代行して購入させていただくか、家族様に持参していただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば携帯電話を使用していただいております。また、家族様に連絡してほしいと希望があれば、職員が代わりに電話しております。利用者様宛に届いた郵便物は直接お渡ししております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で明るい雰囲気大切にしております。洗面台・トイレ・浴室などはこまめに清掃を心掛けております。共有部分には季節感のある装飾を心掛け、日々の生活での楽しい写真を提示しております。	共用部のホールは開口部が大きく、明るく清潔感のある空間で、季節感のある装飾が施されており、居心地の良い環境が整っている。そのため、共用部で過ごす利用者が多い。また、温度や湿度の管理にも配慮し、快適に過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士で同じテーブルにしたり、必要に応じて席替えをおこなっております。静かに過ごされたい方に対しては、お茶などをお出ししながら、声かけをおこなっております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用していた持ち込み可能な物は持参していただいております。馴染みの物、思い出の品、好みの物が居室にあり、安心して過ごせるよう支援させていただきます。	居室にはベッド、チェスト、ロッカーが備え付けられており、利用者は使い慣れた物やテレビなどを自由に持ち込むことができ、居心地の良い空間が作られている。清掃は職員が定期的に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に利用者様の名前を表示しております。トイレなどの共有部分も明記しております。歩行不安定な利用者様には廊下の手すりを使用させていただくよう声かけをおこない、付き添いをし、転倒防止に務めております。		